

# 中国 China

## 新時代の「世界の工場」誕生

ジェトロ海外調査部中国北アジア課 森 路未央

「世界の工場」——中国がそう呼ばれてから20年余。だが、ここに来て世界の工場・中国の時代が終焉を迎えたとの見方も出てきた。実際、近年の賃金上昇などにより中国に工場を持つ企業がASEANに増設するケースが増えている。しかし筆者はそうは見えない。なぜならこの地には約20年間に形成した分厚い産業集積とサプライチェーンが存在しているからだ。中国で調達した部材をASEAN増設工場に供給していること、中国とASEANの工場で製造品目の分業が行われていることから、中国の「世界の工場」機能は従来とは異なる姿に変貌しつつあるが、**凋落**することはしばらくなさそうだ。本稿では、中国の貿易総額の3割弱を占める広東省に集積する事務機産業を例に挙げ、現状を整理しながら今後を展望する。

### 珠江デルタのサプライチェーン

中国が「世界の工場」といわれてきたのは、低コストで大量生産・輸出を行う基地としての条件が整っていたからである。低コスト生産を目指した外国のメーカーは、①香港を活用した特有の加工貿易制度、②低廉かつ豊富な労働力、③工場用地に迅速に転換できる集団土地所有制度、④現地政府のフレキシブルな対応力などの中国の利点を生かし工場を設立した。その結果、グローバル市場向け製品の製造拠点が集積したのである。

現在、華南地域の経済の中心である広東省の珠江デルタ地域（製造業が集積する工業地域）で操業している日系事務機セットメーカー9社を例に挙げよう（表）。その多くは1990年代に、日本や香港の製造拠点を深圳市や東莞市など珠江デルタ地域に移転させ、メーカー各社<sup>注1</sup>が競争しながらサプライチェーンを構築してきた。事務機の一大製造拠点が形成された今では、現地調達率（部品点数ベース）は9割強まで高

まり、多くの部品を珠江デルタ地域内の2時間圏内で調達可能である。事務機製造業界で、珠江デルタ地域のサプライチェーンは世界随一と評されるゆえんだ。

### タイを選ばない理由

珠江デルタ地域の日系セットメーカーの中で、製造拠点をASEANにも設置しているのは7社（表）。いずれも同地域から撤退せずに工場をASEANに増設する形をとる。2011年以降に稼働を始めた5社6拠点の工場のうち、3拠点はフィリピン、2拠点はベトナムにある。タイを選択した企業は1社にとどまる。

珠江デルタ地域には現地調達を効率的に行う環境が整備され、調達コストを抑えられるにもかかわらず、なぜASEANに増設するのか。その理由として挙げられるのは、①製造コストの上昇、②増設地の不足、③一極生産がもたらす危険性などである。では、増設する利点は何か。①相対的に人件費が安価、②工業用地が豊富、③珠江デルタ地域から地理的に近く現地調達できない部品の輸入コストが抑制できることに加え、④ベトナムとフィリピンが実施する輸出加工優遇措置<sup>注2</sup>を得られること——などが挙げられる。

工業国としての歴史が長いタイは、税関など実務に携わるステークホルダー（利害関係者）に起因するトラブルが少ない。事務機製造分野では、90年代に進出したセットメーカーがあることから部材の現地調達も構築されているはずだ。だが、前述したように近年、ベトナムやフィリピンが選ばれるようになった。なぜか。輸出加工に対する輸入部材の免税措置だけでなく、珠江デルタ地域や日本からの輸入部材に対するアクセスの良さが大きいからだ。ベトナムでは北部最大の港湾を擁するハイフォン、フィリピンではバタンガス州の工業団地にそれぞれ製造拠点が増設されている。タ

表 在珠江デルタ日系事務機メーカーのASEAN展開

企業名	珠江デルタ地域製造拠点			ASEAN 増設拠点		
	所在地	年	製品	所在地	年	製品
キヤノン	広東省珠海市	1990年1月 (設立)	カラーレーザープリンター	タイ アユタヤ	1990年8月 (設立)	インクジェットプリンター
	広東省深圳市	1993年2月 (設立)	レーザープリンター 複合機など	ベトナム ハノイ (タンロン工業団地)	2002年5月 (稼働)	インクジェットプリンター レーザープリンター
	広東省中山市	2001年6月 (設立)	モノクロ・カラーレーザープリンター	タイ プラチンプリ	2013年4月 (稼働)	デジタル複合機
富士ゼロックス	広東省深圳市	1995年 (設立)	複写機・複合機 レーザープリンター	フィリピン バタンガス州	2013年4月 (稼働)	モノクロレーザープリンター 付属品・部品製造
リコー	広東省深圳市	1991年 (設立)	複写機・複合機 レーザープリンター	ベトナム ハイフォン (VSIP ハイフォン)	2013年11月 (稼働)	デジタルカラー複合機、小型LEDプリンター 基幹部品(プリント基板、ドラムカートリッジ用部品)
京セラ	広東省東莞市	2002年 (設立)	複写機・複合機 レーザープリンター	タイ ラヨーン県 (アマタシエ工業団地)	2009年9月 (稼働)	モノクロ/カラーレーザープリンター、カラー複 合機、関連部品
セイコーエプソン	広東省深圳市	1985年	レーザープリンター	ベトナム ハイフォン (VSIP ハイフォン)	2012年10月 (稼働)	(低価格帯) 小型モノクロレーザープリンター
ブラザー工業	広東省深圳市	1994年	レーザープリンター	フィリピン バタンガス州 (リマテクノロジーセンター)	2011年10月 (稼働)	インクジェットプリンター プロジェクター
	広東省深圳市	2002年	インクジェットプリンター、複合機	ベトナム ハイズオン省 (フックディエン工業団地)	2007年4月 (稼働)	モノクロレーザープリンター (単機能機、複合機)
沖データ	広東省深圳市	2002年	ATM・通帳プリンター SIDMプリンター・カラープリンター・消耗品	フィリピン バタンガス州 (FPIP)	2013年4月 (稼働)	インクジェットプリンター
				タイ アユタヤ (ロジャナ工業団地) タイ ランブーン (北部産業園)	1994年	プリンター
コニカミノルタ	広東省東莞市	1994年	デジタル複合機 レーザープリンター			製造拠点なし
東芝テック	広東省深圳市	1994年 (稼働)	複写機、デジタル複合機			製造拠点なし

資料：各社ウェブサイトおよび一部ヒアリングを基に作成

イが人件費高騰や人材採用難といった問題を抱えていることも、企業にベトナムやフィリピンを向かせる要因になっている。珠江デルタ地域で稼働するセットメーカーにとって、短時間かつ低コストで部材を輸出できる高い利便性を擁した地域は、今やタイよりもベトナムやフィリピンなのである。

### 製造のすみ分けと部材の輸出供給

近年製造拠点を ASEAN に増設した日系セットメーカーは、各拠点で製造品目のすみ分けをしている。これまで珠江デルタ拠点で製造していた低・中級製品を ASEAN 拠点に移管し、珠江デルタ拠点では高級製品の製造に徐々に特化するという。ただ、稼働したばかりの ASEAN 拠点では、移管品目の生産体制が整備されるまで数年間を要するようだ。現状では ASEAN 新規増設拠点でもプリンター製造の現地調達率(部品点数ベース)が7割近くに達するメーカーもある。だが、複合機部門は部品点数が多くなることやハイテク部品を搭載することが多いため、珠江デルタ地域や日本からの輸入調達に依存せざるを得ない。明らかに言えることは中国の輸出製造拠点のコスト競争力が失われつつあるということだ。

日系セットメーカー A 社によると、ASEAN 拠点での部品の現地調達は、大物の樹脂成形部品、板金、機能性パーツに限られ、ドラムや集積回路などの特殊部品は日本から、その他部品は珠江デルタ拠点からそ

れぞれ調達しているという。グローバル市場向けの部材調達経路は「現地市場調達」と「日本→中国」から「日本→中国または ASEAN」と「中国→ASEAN」という複線型に変化している。今後、セットメーカーが ASEAN 拠点で増産すれば珠江デルタ地域のサプライヤーの ASEAN 増設も進むだろう。

ASEAN への製造拠点増設は中国が「世界の工場」の地位を失ったことを意味するのか。否である。これはむしろ、「世界の工場」の再編の一環と捉えるべきだ。中国の輸出型工場はこれまで優位性を発揮してきた低コスト生産という役割を終えつつあり、新たな形態として高級製品の生産拠点かつ部品供給センターという役割も担い始めている。いわば新時代の「世界の工場」の誕生ともいえよう。ASEAN の増設拠点は珠江デルタ製造拠点からの部品供給なくして製造できない体制だ。今後 ASEAN 拠点が部材の現地調達率を高め、中国依存から脱却し、ひいては珠江デルタから産業移転が行われることで、世界の工場に成長していくことに期待したい。そのためには、中国の分厚いサプライチェーンを支える地場企業のような存在が創業されるよう、増設地の政府などによる政策的支援も必要になろう。



注1：セットメーカー各社は、現地にメーカー系列の調達物流会社を設立し、部材の調達実務と在庫管理などを行う。

注2：輸出を目的に輸入した部材に対する輸入関税の免税措置であり、この場合、ASEAN 中国自由貿易協定 (ACFTA) の枠組みを利用する必要がない。